

第623回 新潟放送番組審議会 議事録

－ 議題 －

フリートーク



平成 28 年 12 月 15 日

BSN新潟放送

第623回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成28年12月15日(木)午後4:00～

2. 開催場所 新潟市中央区 イタリア軒 5F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	相羽利子	委員	佐々木広介
委員	正道かほる	委員	小島良子
委員	佐藤元	委員	細田康
委員	服部誠司		

○委員側欠席者

副委員長	古賀豊	委員	高木言芳
委員	池田幸博		

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	営業局長	斎藤和利
編成局長	島田好久	報制局長	太田志信
ラジオ本部長	高坂元己		

事務局出席者

事務局長	増山由美子(広報部長)
事務局員	丹羽崇(社長室長)

4. 議題

1 報告事項

・年末年始・2017年1月の新番組・単発番組について(各局長)

2 審議事項 【フリートーキング】

7月～12月放送のラジオ・テレビ番組(自社制作・TBS他ネット番組)
及び放送全般についての意見交換

5. 議事の概要

各局長からの2017年1月度番組報告に続いて、フリートークが行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- BSNのラジオ番組・テレビ番組のレベルが高くなった。多角的で丁寧な取材とアーカイブ映像の利用でとても分かりやすい内容だ。さらに意外性もあって気持ちよく答えが出ている番組や、流れに乗って見ることができる番組が増えた。その分、感動も深くなる。ただ、TBS系列も他の系列もそうだが、このところ、アメリカ大統領選挙や韓国の大統領の報道ばかりで、生活に密着した国内の問題をもっと知りたいのに、突っ込み不足で少し歯がゆい。TBSのドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」は最初、見損ねたが、録画してみたら、女性の働く問題を取り上げ、シナリオもとてもよく、面白かった。これからももっと見たい。
- TBS系列の今期のドラマは全部がとても面白い。内容が充実していると感じている。他の番組も、家族で楽しめる。BSNの番組は「にいがた偉人伝」の放送が終わって残念だ。見逃した県民もいるので、夏休みなどに何本かをまとめて放送してもらいたい。新潟県内の学校でのいじめ問題について、もう少し色々な角度から報道してもらいたい。報道の仕方によって緩和されることもあるので、できるだけ人を傷つけない形で報道してほしい。
- TBSのドラマは、仕事に焦点を当てたものが多かったが、仕掛けも含めてスマートフォンの時代に合っていて、良かった。ワイドショーの話題は独自の取材が少なく、雑誌などの記事を紹介してコメンテーターがしゃべるパターンが多く、食傷気味だ。オリンピック・スポーツ報道は大勢の芸能人が関わっていたが、しっかりとした報道がなされるべきだ。BSNの自主制作番組は全国レベルのものが増えている。ぜひこれからも続けてほしい。
- BSNの番組は実力を十分発揮して、立派な成果を上げており、素晴らしい。様々な分野で積極的な番組作りを進めており、敬意を表する。「水曜見ナイト」について、かつて食べ物話題が多すぎると苦言を呈したこともあるが、取り上げ方に工夫がみられる。「にいがた偉人伝」のようなじっくりとした取り組みや、ニュースにおける信頼性など、BSNに期待する所は大きい。TBSの「ニュース23」や「サンデーモーニング」は内容が充実していて、見ごたえがあり、論評が時宜を得ていると日頃、感じている。ニュースは速報性が優先であり、磨き上げてほしい。中国残留孤児の番組や写真家・天野尚氏の番組はまさに骨太のドキュメンタリーで、今後も続けてほしい。レギュラー化が無理でも見やすい時間帯に定期的に放送する枠があってもよい。BSNのこれからの取り組みに注目しており、この先さらに大きな成果が得られると考えている。
- BSNの自社制作番組のうち「にいがた偉人伝」は素晴らしい人材が新潟にいたことを振り返ることができ、アーカイブとしても意義ある番組だ。「ゆうなび」は工藤キャ

スター、新海キャスターのコンビが当たっている。ニュースは地元の話題をしっかりと出している。キャスター自身が現場で取材する姿勢が素晴らしい。今後も続けてほしい。TBSのドラマは好調で、キー局が元気になると系列局も活気づくので良い事だ。報道について、インターネットの後追いもしかたがない部分はあるが、そのまま流す姿勢では困る。深堀するためにはしっかりと裏付けをとって必ず精査することを期待したい。

- BSNの姿勢は地元の放送局としての矜持を感じる。一貫して地域貢献を考え、制作した番組が数々の賞に輝いたことも素晴らしい。食を紹介する番組も、ドキュメンタリー番組も、新潟がどうしたら発展するかの観点がある。放送局には経営とジャーナリズムの二つの側面があるが、番組の同時再配信が普及すると地方局のあり方がどうなるのか経営的にも大きな問題だ。また、アメリカで大統領選挙の予測がくつがえった結果をみると、ジャーナリズムも過渡期に来ている。インターネットで取りたい情報だけを取っている人たちにテレビ報道をどうやってみせるか考えないといけない。番組審議会の多様な意見を参考にこれからも素晴らしい番組を作してほしい。
- BSNラジオは良く聴いている。土曜日の朗読番組は10分ほどの放送だが、ずっと入り込んでいける。ただし、良い放送をしても、一般の聴取者はどこの放送局かまでは覚えていないようだ。「ふるさと新潟 祖国日本 還りついたうつつの国」は中国残留孤児の問題をテーマにしている、戦後70年が経っても様々な問題があることを分からせてくれた。新潟知事選挙についてもBSNはしっかりとした報道を行っていた。

～新潟放送 竹石松次代表取締役社長から～

- いつも厳しい意見、温かい励ましを頂き、ありがとうございます。放送局の経営とメディアの役割について、ともに難しい時代に来ている。ローカル局として県民に安心安全な情報を提供することが大前提である。その上で、新潟県をもう一度見直す姿勢が大事だと思う。来年は新潟放送創立65周年を迎えるが、番組の同時再配信はローカル局にとって大変重要な問題で、通信と放送の融合はまったなしなので対応策を取らないといけない。